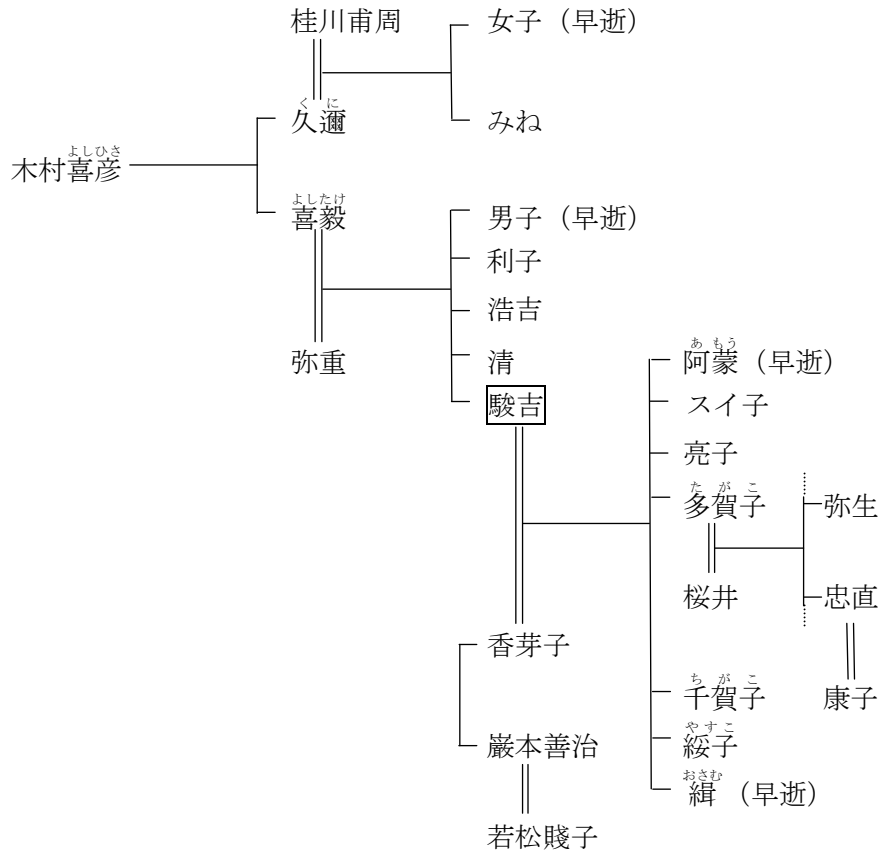


木村駿吉年表

- 1866年 慶応2年 10月2日(11月8日) 江戸(芝 新浅座…現在の港区浜松町1丁目あたり)に生まれる
- 1881年 明治14年(15歳) 東京大学予備門に入学
- 1884年 明治17年(18歳) 7月卒業 東京大学理学部入学 学業優秀につき毎月金7円の奨学金を賜る
- 1888年 明治21年(22歳) 7月 帝国大学理科大学物理学科卒業 大学院へ
植村正久より洗礼を受ける。(時期不明) 一番町一致教会の長老
- 1889年 明治22年(23歳) 7月 院生のまま第一高等中学校嘱託教員 (月額金三十円)
9月 明治女学校に高等科ができ、理化天文学を教える。
11月 帝国大学基督教成年会主催の演説会で演説「基督教と科学」(内容は不明)
12月16日 一番町一致教会で説教「奇跡と科学」(内容は不明)
- 1890年 明治23年(24歳) 『科学之原理』『物理学現今之進歩』 第一高等中学校 教諭
10月 教授に(奉任官五等) 内村鑑三を一高に推薦、内村は嘱託教員に
10月10日 巖本善治の実妹「かめ」(1871-1951)と結婚
- 1891年 明治24年(25歳) 1月9日 内村鑑三の不敬事件 当日木村と中島は欠席
2月23日 非職(明治27年2月非職3年で満期、年俸の下賜を受ける)
9月 立教学校(1877創立)の教頭に 就任
- 1893年 明治26年(27歳)8月 立教学校辞任 米国ハーバード大学大学院へ留学
- 1894年 明治27年(28歳) イェール大学大学院へ移る
- 1895年 明治28年(29歳)8月 夏季休暇中に英国、オランダへ旅行
ライデン大学モーレンブルック博士と共に「国際四元法協会」の設立を相談
- 1896年 明治29年(30歳)5月 博士論文 "On the General Spherical Harmonics" Ph.D
9月 帰国 第二高等学校教授 高等官六号 7級俸
- 1897年 明治30年(31歳)3月 盟休事件 厳格主義の校長を排斥するストライキ。吉村寅太郎校長は転任
この頃、兄浩吉は福沢諭吉に自分も中佐になり生活も安定したため、御贈答は辞退したいと告げる
- 1898~1899年(明治31~32年) マックスコール(独)よりマルコニの無線電信機を購入。学生の前で実験
1895~96(明治28~29) マルコニ(伊)無線電信機の発明
- 1900年 明治33年(34歳)3月9日 名目上は海軍教授 無線電信調査委員
「薄暗い陰気な所から明るい晴ればれした所へ来たという気分」
- 1901年 明治34年 12月 父 木村芥舟 没
- 1902年 明治35年(36歳) 外波と共に、米国・ヨーロッパの視察。(テスラを訪ねる。)
艦船用無線電信機の開発
- 1903年 明治36年(37歳)海軍技師
三六式無線電信機が「信濃丸」のバルチック艦隊発見を通報
- 1904年 明治37年(38歳) 勲五等旭日章賞金付 (無線電信機の創製)
- 1906年 明治39年(40歳) 勲三等旭日章年金付 (日露戦争の功)
- 1913年 大正2年(47歳) 高等官2等 (技師として最高)
後に、在官期間が短いにもかかわらず2つの勲章を受けたことについて
「既に世の中を引退した老人がこれ位は自慢してもよいだろう」
- 1914年 大正3年(48歳) 3月 海軍退官
日本無線電信電話会社取締役 弁理士
- 1938(昭和13)年10月6日 胃潰瘍のため逝去 72歳 多磨霊園

木村家を巡る家系図



木村駿吉 著作一覧

- 「物理学一斑」『六合雑誌^{りくごう} 78号 79号』東京警醒社,1887年6月,7月
『科学之原理』金港堂,1890年
『新編物理学』卷之上・下,内田老鶴圃,1890年
「木村理学士の書簡」『毎日新聞』6078号1頁,1891年3月5日
『物理学現今之進歩 卷之1～6』内田老鶴圃,1890,1891年
『新編小物理学』内田老鶴圃,1891年
G.Knott and S. Kimura,“On Certain Thermoelectric Effect of Stress in Iron”
『帝国大学理科大学校紀要 理科』 Vol.IV(1891):341-356
“On Certain Electrical Properties of Ion-Occcluding Gases”, *Proceeding of Royal Society of Edinburgh*,1893-4:203-212 (Read Dec. 18,1893)
アルフレッド・ダニエル, 木村駿吉訳『物理学原論 上巻・下巻』内田老鶴圃,1893年
メンデンホール, 木村駿吉・重見経誠^{しげみけいせい} 訳『電気学術之進歩』内田老鶴圃,1893年
『新編中物理学』内田老鶴圃,1893年
「在米理学士木村駿吉ノ書状」『学士会月報』第82号,1894年12月20日
“On the Geometrical Type of the Surface of Univalve Shells” ,*Proceeding of Royal Society of Edinburgh*,1894-5:523 (Communicated by Dr Knott)
翻訳「博物館に貝殻を見るの記」『東洋学芸雑誌』12巻168号1895年9月25日
“Studies on the General Spherical Harmonics”,1896,エール大学博士論文
“On the Nabla of Quaternions”, *Annals of Mathematics*, Vol.10 No1/6 , (1895–1896):127-155
P.Molenbroke,Shunkichi Kimura,To Friends and Fellow Workers in Quaternions,
Nature,Vol 52,1895:545-546
S.Kimura and P. Molenbroke,“To Those Interested in Quaternions and Allied Systems of Mathematics” *Science* 2ndSer. Vol.2 No 42,1895:524-5
「廻文に添へて東洋学芸雑誌記者足下に一書を寄す」東洋学芸雑誌,第170号,1895
「ハサウエー著四元法入門」『東洋学芸雑誌』12巻177号,1896年6月25日
“On the Thickness of a Shell Produced by Small Displacement of a Surface”,
東京数学物理学会, Vol.8 ,No.3,(1896) : 113-118
“Magnetization by Induction of Rotating Sphere and Spheroid under Solenoidal Distribution of Magnetizing Force” 東京数物学会記事,Vol.8 No.2, 1896年:53-89
『スフェリカル・ハルモニックス』大日本図書株式会社,1897年
木村駿吉閱 山下安太郎編『新編理化学示教』内田老鶴圃,1897年
『仙台市及附近震災被害調査報告』(参照第七) 震災予防調査会報告第21号,
51-56頁,1898.07.28, 明治30年4月4日付,参照書類
木村駿吉述, 波木井九十郎編集『四元法講義第1冊』内田老鶴圃,1898年
『磁気及電気』内田老鶴圃,1898年
「ナイヤガラ水力利用始末」『天地人』1号,1898年1月2日,89–94頁

「ニコラ、テスラと電気応用」『天地人』4号,1898年4月2日,80-86頁
「四元法の過去と現在」『天地人』6号,1889年6月2日,79-89頁
「雑報 四元法協会開始」『東洋学芸雑誌』16巻第211号,1899年4月25日
アルフレッド・ダニエル (木村駿吉訳) 『医学生用物理学教科書 上・中編』南江堂,1900年
エツアルド・リーケ (木村駿吉訳述) 『物理般論：自習及講義用』第1巻・第2巻, 大日本図書株式会社,
1901年
『世界之無線電信』内田老鶴圃,1905年
実用基本電気叢書 第1冊『レジスタンス』内田老鶴圃,1914年
実用基本電気叢書 第2冊『イムピーダンス』内田老鶴圃,1914年
実用基本電気叢書 第3冊『ポテンシオメートル』内田老鶴圃,1914年
『趣味の電気』内田老鶴圃,1914年
『工産業に於けるオゾンの利用』木村事務所,1915年
『ダクチル・タングステンの発明』内田老鶴圃,1918年
『川村清雄 作品とその人物』 自費出版 1926年
木村駿吉述「日本海軍初期無線電信思出談」『科学史研究』9号 1945 (昭和20)年5月
他に『ラジオの日本』昭和13年7月-11月掲載版、日本無線株式会社作成版の2部
「新刊レビュー」『学士会月報』 1934年 (昭和9年) 4月~1938年 (昭和13年) 8月
(553号、554号、556号、562号、563号、565号、570号、574号、576号、585号、587号、589
号、590号、591号、596号、598号、599号、602号、603号、604号、605号)